

## 米市況情報

### ◎北海道の作況概要「不良」見込み

北海道における8月15日現在の作柄は「不良」が見込まれます。

8月15日現在の作柄は6月中旬から7月中旬にかけて低温・日照不足で経過したことから、穂数が「少ない」、全もみ数が「少ない」と見込まれるものの、7月下旬からの好天により回復の兆しが見られましたが、全もみ数が少ないと見込んでいます。

地帯別では空知・上川を含む7地帯が「不良」、後志など3地帯が「やや不良」、十勝・オホーツク地帯が「平年並み」となっています。

平成30年6月末の民間在庫は199万トンと前年より5万トン減少する見通しとなっている。30年産米の生産量は生産の目安となり、大幅な消費の減退がなければ190万トン程度になる見通しで適正在庫を下回ると見込まれますが、今後の消費動向や作柄等により変動も予想されます。

本年産の需給環境は、29年産米価回復傾向に伴う末端価格の上昇、人口減少や高齢化社会などにより消費量が減退していますが、主産県（6県）では、もち米、飼料用米、備蓄米等から主食用米へ振替されており、前年産より主食用うるち米の総体面積は増加傾向となっており、卸では需給が均衡することは無いとの見解を示しています。また、出来秋の作柄によっては需給環境が大きく変化し、持越し在庫量が適正水準を大きく上回り米価への影響が懸念されます。

ホクレンにおいては今後の府県産価格や作柄により相対価格を勘案し決定される予定となります。

### ◎出荷契約数量は203,826俵、

### 1俵でも多くの集荷に向け取り組みます

本年の出荷契約数量は、うるち米191,616俵、もち米12,210俵合わせて203,826俵の契約となりました。契約をいただきました生産者各位に対し心からお礼申し上げます。

今後、出荷増に向け推進を実施し1俵でも多く積上げるよう集荷に努めて参ります。

### ◎「JAたきかわ産米」

### 産地評価の向上・信頼に向け

本年の米販売は、播種米契約数量109,735俵を提案し、全て成約に至っており、ホクレン共計販売を中心とした安定販売と固定ユーザー向けJA独自販売を引き続き実施し共計経費の削減と精算価格の上積みに向け販売に取り組んで参ります。

販売促進に向け、卸・実需への訪問では、幅広い需要（特栽米、一般米、業務用米）に対応する安定生産・安定供給体制による販売量の確保が求められております。

本年度は、生産の目安が設定された初年度であり、今後米価の安定を図っていく為、卸・実需へ安定した品質を供給することにより信頼される産地として、生産者とJAが一体となって集荷・販売を展開していくことが重要な年なので1俵でも多くの出荷をお願い致します。

## 水稻採種圃場審査

8月13日（月）に江部乙町水稻採種組合の第1期圃場審査が実施されました。

同組合の役員、並びに各関係機関を含めた16名の出演により、審査が行われました。各組合員より抽出された審査圃場を「異形株、羅病株、雑草等」の有無を田んぼを歩いて確認します。



普及センターからの生育状況としては平年より10cm程草丈が短く全体に小振り傾向との見解がありました。

9月3日（月）に第2期圃場審査が前回と同様に実施されました。審査については2回で終了し、これから収穫を迎える事になります。

